

港区の施策・事業等について
部会で出された主なご意見と区役所の対応・考え方

○福祉部会（平成 28 年度第 2 回：平成 28 年 10 月 19 日開催）

番号	意見	区役所の対応・考え方
①	地域福祉の推進に関わる関係機関では、様々な関連事業を区内で実施している。それらを区として把握し、わかりやすく資料としてまとめて示すことにより地域福祉の一層の推進が図れるのではないか。	地域福祉を推進するためには関係機関との連携が大切であり、各関係機関が実施する関連事業を把握し、全体像を明らかにすることが重要であると考えています。今後、関連事業を把握し、資料としてわかりやすくまとめてお示しします。
②	今後は、介護予防に力を入れていくことが重要である。「いきいき百歳体操」とともに、「かみかみ百歳体操」も介護予防と口腔機能向上に非常に効果が高いと認識しており、推進してもらいたいと考えている。 区として「かみかみ百歳体操」の推進についてどのように考えているのか。	団塊の世代が 75 歳以上となる平成 37 (2025) 年に向け、ひとり暮らしや夫婦のみの高齢者、認知症高齢者の増加が予測される中、住民主体の通いの場を充実させ、人と人とのつながりを通じて、参加者や通いの場が継続的に拡大する地域づくりを推進することで、要支援・要介護認定に至らない高齢者を増やし、重度化予防を推進することが重要です。 大阪市でも、住民主体の通いの場等の活動を支援することとし、中でも、筋力やバランス力向上にとどまらず、認知症予防、地域づくり・仲間づくりの効果が見込まれる「いきいき百歳体操」の地域への普及・支援を行うこととしています。 港区では現在、「いきいき百歳体操」を紹介するための講座の開催を各地域に働きかけており、講座の開催時に併せて「かみかみ百歳体操」も紹介しています。引き続き、各地域に「いきいき百歳体操」とともに「かみかみ百歳体操」を紹介し、取り組む意向のある地域については、取り組みを始める際の助言や正しい体操のやり方の指導などの支援を行います。

③	高齢者虐待、障がい者虐待、児童虐待のケースについてどのような方法で把握しているのか。	高齢者虐待については、警察からの通報が一番多く、その他、ケアマネージャーやヘルパーなどの介護サービス事業者、地域の方が主な通報経路となっています。 障がい者虐待については、障がいのある方が利用している障がい福祉サービス事業所からの通報が一番多いのが現状です。 高齢者虐待も障がい者虐待も通報等があったから原則 48 時間以内に事実確認を行い、虐待対応を行う関係機関で会議を開き、把握した情報を共有するとともに、虐待か否かの判断及び対応・支援方針を決めています。 児童虐待については、保育施設や小、中学校からの通報や相談が最も多く、それらのケースを要保護児童対策地域協議会の「実務者会議」に登録し、情報収集した内容を関係機関と共有、対応・支援を協議しています。
④	区政委員名簿に、区役所出席者の氏名を記載してほしい。	次回開催分より対応します。